

ご挨拶



就任のご挨拶

岡田 芳幸

病院 口腔健康発育歯科
障害者歯科 教授

平成30年3月1日付けで、岡田 貢 教授の後任として広島大学病院 口腔健康発育歯科 障害者歯科の教授に任ぜられ過日着任いたしました 岡田 芳幸 です。私は北海道大学歯学部を卒業し、地元の信州大学大学院（加齢適応学）で神経生理学的手法を応用したヒト循環調節機構に関する研究を行って学位を取得しました。その後、テキサス大学循環器内科、およびプレスビテリアン病院環境医学の博士研究員として、高血圧患者や妊婦における交感神経性血管調節や左室機能の研究に従事していました。帰国後は松本歯科大学障害者歯科学講座にて先天性心疾患やその他慢性疾患、障害をお持ちの患者様に関わる歯科臨床および研究を進めてまいりました。

近年の急激な高齢化と医療技術の進歩により、多くの方が何かしらの疾患や障害を持ちながら生活をしている時代になりました。歯科治療のストレスはこのような患者様にとって、受け入れがたい苦痛となったり、基礎疾患を増悪させたりする原因にもなりかねません。そのため、かつての精神障害の対応が中心であった障害者歯科は慢性疾患やフレイルへの対応を迫られ、全身総合的な医療ニーズを提供する歯科へと拡大してまいりました。当科では専門的な知識の向上に留まらず、地域の施設や歯科医院、また、他職種の方々と連携を取りながら安全な歯科治療を提供することで、地域の皆様に安心して来ていただける診療科を目指しております。浅学の身であり、皆様には教えを乞うことが多々あるかと思いますが、新しい環境の下、研究、教育、そして臨床に一層精励いたす所存でございますので、何卒ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



就任のご挨拶

池上 浩司

医歯薬保健学研究科 医歯薬学専攻
医学講座 解剖学及び発生生物学 教授

平成30年4月1日付けで、青山裕彦教授の後任として大学院医歯薬保健学研究科 医学講座解剖学及び発生生物学の教授を拝命いたしました池上浩司と申します。私は愛知県の出身ですが、広島は人生初の学会口頭発表を行った思い出の地であり（平成11年開催第42回日本神経化学会：中村重信大会長）、勝手ながら縁を感じております。

私は平成11年に北海道大学理学部生物科学科を卒業し、同大学院で博士（理学）を取得した後、東京にある三菱化学生命科学研究所（残念ながら平成21年に閉所）で瀬藤光利先生主宰の研究室に参加しました。平成20年に瀬藤先生の浜松医科大学教授就任に伴い、私も浜松医科大学に連れて行っていただき、以来解剖学教育に従事してまいりました。広島大学ではこれまで以上に解剖学教育に力を入れていく所存です。

研究面では解剖学における中心課題の一つである細胞や組織が持つ極性（前後、上下、左右などの方向性）を対象に、各種イメージング技術を使って極性の分子基盤の解明や、極性構造に見られる特徴的な現象の発見に力を入れてきました。とりわけ神経突起や線毛・鞭毛など、細胞骨格微小管が形態学的極性の基盤となっている構造を対象にした研究を得意としています。広島大学ではこれまで以上に新技術を貪欲に取り入れ、時に自ら新しい手法を開発するなどして、世界トップ100の研究大学を目指す広島大学の発展に貢献したいと思っております。何卒、ご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくようお願い申し上げます。